

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 地域の第一線で頼りにされ、愛され、そして地域を支えていく「地域の星」となる人材を育成する。
- 教科指導および進路指導の強化、さらに部活動や学校行事を通して生徒の進路選択肢を増やし、将来幅広い分野で活躍できる人材を育成する。
- 自らを律し、他人に思いやりを持ち、何事にも誠実に取り組む態度を育成する。
- 共生推進教室の設置により、ノーマライゼーションを推進できる人材を育成する。
- 国際交流活動を通して、多様性を享受する能力を育成する。
- 地域連携をさらに推進し、地域とともに成長し信頼される学校となる。

2 中期的目標

1. 学力の向上

- (1) 個々の生徒に応じた授業を展開し、授業満足度を増大させる。生徒の学習状況に応じ「わかりやすく楽しい授業」から「難しいが進路実現に役立つ授業」まで幅広い質の授業を展開
- (2) ICT機器の活用、研究授業等により教員の授業改革を進め、学力の3要素（知識・技能／思考力・判断力・表現力／主体性・多様性・協働性）の育成を図る。
- (3) 学力生活実態調査を活用し、3年間を見通した学力および学習習慣の育成を図る。
 - ※ 学校教育自己診断：「授業内容は難しいが、進路実現に役立つ」への生徒の肯定的回答75%以上（H30:73.0/R1:78.7/R2:81.9%）
 - ※ 学校教育自己診断：「教え方に様々な工夫をしている先生方が多い」への生徒の肯定的回答85%以上を維持（H30:91.3/R1:93.1/R2:96.0%）
 - ※ 学力生活実態調査において、3年間学力到達レベルB3以上を維持（H30:B3/R1:B3/R2:B3）

2. 自主的な活動の推進

- (1) 生徒会活動・学校行事・部活動の活性化、国際交流活動の推進
- (2) ボランティアや地域と連携した事業への積極的な参画
 - ※ 部活動への参加率70%以上を維持、活動実績の向上（H30:69.0/R1:71.5/R2:69.6%）
 - ※ 学校教育自己診断：「国際交流、他校または地域との交流活動に参加する機会が多い」への生徒の肯定的回答30%以上（H30:33.4/R1:37.3/R2:25.1%）

3. 安全で安心な魅力ある学校づくり

- (1) 「高校生活支援カード」や「安心・安全アンケート」等により生徒情報を収集し、教育相談を積極的に行う。
- (2) 規範意識、人権意識、ノーマライゼーション、思いやりの気持ちをより一層涵養する。
- (3) 外部機関と連携を図り、交通事故の防止、SNSの適正利用、いじめ防止などについて継続的な指導を行う。
 - ※ 学校教育自己診断：「悩んだり困ったりした時に相談できる先生がいる」への生徒の肯定的回答65%以上（H30:62.0/R1:66.0/R2:66.9%）
 - ※ 学校教育自己診断：「先生は、いじめについて真剣に対応してくれる」への生徒の肯定的回答80%以上（H30:78.8/R1:81.5/R2:88.3%）
 - ※ 学校教育自己診断：「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会が多い」への生徒の肯定的回答70%以上を維持（H30:76.2/R1:82.8/R2:85.7%）

4. 個々の生徒が目的意識を明確に持った進路指導

- (1) 「総合的な学習の時間」および「LHR」等を有効に連携させ、「キャリア教育」、「人権教育」および「志学」を包括的に展開する。
- (2) 自らの進路目標達成に向け、主体的に学習状況を把握し進路目標までのマイルストーンを描きながらアプローチできる進路指導を行う。
- (3) 社会の情報化・高齢化・グローバル化に対応し、多様性を身に付け主体的に生きていくことの出来る力を育成する。
- (4) 「共生推進教室」においては、一般生徒と「共に学び、ともに育つ」を一層推進し、人間性・社会性を成長させることにより、共生生徒全員の就職をめざす。
- (5) 進学実績の向上を強力に進める。
 - ※ 英語運用能力テストでCEFR A2レベル以上相当資格取得者40名以上在籍（H30:37/R1:57/R2:未実施）
 - ※ 学校教育自己診断：「共生推進教室の生徒とともに様々な活動に参加する機会が多い」の生徒の肯定的回答40%以上（H30:44.2/R1:52.0/R2:45.9%）
 - ※ 共生推進教室の卒業時の就職率100%（H30:100/R1:100/R2:100%）
 - ※ 中堅上位以上大学（国公立・関関同立・産近甲龍など）レベルの現浪合格数170以上を維持（H29:172/H30:172/R1:168/R2:177）
 - ※ 中堅大学（摂神追桃など）レベルの現浪合格数240以上を維持（H29:236/H30:227/R1:242/R2:205）

5. 広報活動の充実

- (1) 地元中学校との連携、および広報紙・学校説明会をより一層充実させる。
- (2) インターネットを活用し、本校の教育活動の積極的な発信を図る。
 - ※ 学校教育自己診断：「学校は、ホームページの更新やメーリングリスト等で、学校の情報を伝えている」の保護者の肯定的回答85%以上（H30:84.5/R1:86.9/R2:88.8%）
 - ※ 中学3年生対象第1回進路希望調査において希望倍率2.0以上（H30:2.44/R1:2.37/R2:2.46倍）

6. 職員の時間外勤務時間の縮減

- (1) 「大阪府部活動の在り方に関する方針」を実効化するとともに最終退庁時刻の励行を進める。
- (2) 特定の職員に業務が集中しないよう業務分担と業務サポートを進める。
 - ※ 年間の職員の月平均時間外勤務時間数を30時間未満に維持する。（H30:28h43m/R1:28h09m/R2:28h18m）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和3年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>[生徒:生/保護者:保、% (前年比)]</p> <p>1. <u>生徒・保護者とも肯定的回答が上昇している項目</u> 「生徒相談」生 68.2(+1.3)/保 69.8(+5.5)、「進路情報の提供」生 87.2(+1.6)/保 81.1(+2.0)、「人権・モラル教育」生 86.1(+0.4)/保 82.4(+0.2)、「情報発信」保のみの項目 89.1(+0.3)</p> <p>2. <u>1以外で生徒または保護者で肯定的回答が80%以上の項目</u> 「学校が楽しい」生 82.1/保 82.9、「いじめ対応」生 87.5/保 75.1、「生徒指導」生 70.1/保 80.7、「授業工夫」生 92.5/保 53.6、「学校行事」生 85.1/保 79.5</p> <p>3. <u>教職員で肯定的回答が昨年比10%以上、上昇した項目[% (前年比)]</u> 「教育相談体制」88.1(+19.1)、「生徒指導体制」74.6(+14.9)、「カウンセリング・マインド」79.1(+17.9)、「授業改善」71.6(+10.4)、「進路に役立つ授業計画」85.1(+10.4)、「授業見学・意見交換」58.2(+16.4)、「人権教育」86.6(+12.0)、「共生推進体制」91.0(+19.4)、「校長のリーダーシップ」73.2(+12.0)、「情報共有」79.1(+10.4)</p> <p>4. <u>昨年度より生徒または保護者の肯定的回答が大きく下降した項目</u> 「学校行事」生 85.1(-4.6)/保 79.5(-6.9)、「地域連携・国際交流」保 27.5(-4.0)、「授業内容は進路に役立つ」生 76.5(-5.4)</p> <p>5. <u>分析</u> ※相談しやすい教員集団の形成や人権教育の充実など、生徒が安心できる学校づくりへの取組みの効果がでてきていると考えられる。ICTを活用した授業改善が進むとともに、進路指導についても生徒・保護者から高評価を得ており、総合的にみて学校教育活動全般について高い評価を得ている。</p>	<p>【第1回の抜粋】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域の星」となる人材を育成することは重要である。 ・生徒が主体的に学び、深い学びになることを期待している。 ・進路選択を広げ、生徒自身が自分の実力を把握したうえで進路選択ができる環境づくりが重要。 ・1人1台端末が生徒に配布されるため、これまで以上にICTを活用した「授業の効率化」と「個々の学力スキルの向上」に期待している。 ・SDGsを活用した進路目標の設定は生徒にとって良いことと思う。 ・コロナにより、保護者の生活の不安定から、日常生活や進路等の様々なところに影響が出ていることが心配であり、生徒たちの日々の様子の観察と適切な支援・指導を。 <p>【第2回の抜粋】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営計画の中間報告において、どの項目についても目標に達していて素晴らしい。 ・コロナ禍の中、学校行事が思うように行えない中、様々な工夫をして活動をさせてあげてほしい。 ・先生の日々の改革・努力が生徒達の学習意欲を向上させていることがうかがえ、これからも頑張ってもらいたい。 ・学習用端末の活用など、先生方も大変ご苦労されているのだと思います。 ・新入試およびコロナ禍の影響より大学入学共通テストの志願者数が減少する中、目標の80名を超えていることから、一般選抜を見据えた進路指導が浸透していると感じた。 ・授業に関して真面目に取り組む生徒が多いことがよくわかった。 ・学業だけでなく、部活動にも積極的に取り組み、全国・近畿レベルで、高い評価

府立久米田高等学校

<p>※一方で、「学校行事」についてはや「国際交流」は、新型コロナによる制限の影響で下降したのが残念である。</p> <p>※学校が楽しく（生徒肯定 82.1%）、規律ある雰囲気の中で授業が行われており、教育活動に必要な情報についても生徒・保護者や地域への発信に努めていることが評価されている。</p> <p>※教職員間で日常的に教育活動について話し合いながら授業計画を進めているが、「授業内容は進路に役立つ」に肯定的な生徒回答が-5.4ポイント下降しており教員の+4.4ポイントとの意識のズレがある。より一層入試と授業内容との関連づけを意識した授業研究に努めたい。</p> <p>※記述式アンケートでは、感謝のコメントが多数見受けられ、教職員の自信にもつながる一方で、「コロナによりいくつかの行事がなくなり残念」「わかりやすい授業とわかりにくい授業に差がある。なんとかならないか」などの内容のものも少なからずあり、コロナ禍での行事の工夫や全教員的な授業改善への取組みが必要である。</p>	<p>を得ることは、本当に素晴らしいと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の健康、安全、感染対策に配慮しながら、高校生活でしか経験できない行事活動については、中止ではなく延期など日程調整を検討していただきたい。 <p>【第3回の抜粋】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年度の学校評価や令和4年度学校経営計画は全員の承認を得る。 昨年度から引き続き、コロナ禍での教育活動に大きな制約があった中、目標を達成できている項目が多いことは教職員の力によるものであると思われる。 数値に現れてこない実態(課題や問題)についても教職員間で共有し、次年度の学校経営に反映を望む。 生徒の授業理解度を高め、生徒一人ひとりの希望進路の実現に向けて授業を工夫されており、コロナ禍での1人1台端末の活用が注目されている中、先生方のICT活用率の高さが見受けられる。 自己診断アンケートにおいて、二極化傾向がみられる項目についての取り組みを意識していただければと思う。また、生徒・保護者とも学校教育に対して積極的な意見が多く良いことだと思う。
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R2年度値]	自己評価
1 学力の向上	<p>(1) ICT 機器やその他の教材を有効に活用できるように教員の授業力向上を図る</p> <p>(2) 学力生活実態調査を活用し学力・学習習慣の定着を図る</p>	<p>(1) PCの生徒1人1台配布の初年度を迎え、オンライン委員会を中核にオンライン学習の準備や教材開発を進める他、教科内での授業スキルの共有により「わかる授業」のための授業計画を進める</p> <p>(2) 学力生活実態調査・全国模試を全員受験とし、結果データを分析し、教科指導、個人・保護者面談等に有効に活用する</p>	<p>(1) 学校自己診断「教え方に様々な工夫をしている先生が多い」90%以上 [96.0%] 教員のICT活用率65%以上 [64.2%]</p> <p>(2) 学校自己診断「授業内容は難しいが進路実現に役立つ」80%以上 [81.9%]</p> <p>学力生活実態調査の学力結果(GTZ)をB3以上 [B3]</p>	<p>(1) 学校自己診断「教え方に様々な工夫をしている先生が多い」92.5% ○ 教員のICT活用率73.1% ◎</p> <p>(2) 学校自己診断「授業内容は進路実現に役立つ」76.5% より一層進路との関連性を示す授業づくりを進めたい △</p> <p>第2回学力生活実態調査の学力結果 ◎</p> <p>1年: B2 (国B3・数B2・英B2) 2年: B3 (国B3・数B2・英B3)</p>
2 自主的な活動の推進	<p>(1) 部活動の活性化</p> <p>(2) 学校行事の見直し</p> <p>(3) 地域との連携事業の推進</p>	<p>(1) 学校説明会におけるクラブ見学や新入生の体験入部など通して、部活動の活性化を継続する</p> <p>(2) 次年度の体育専門コース閉講に伴い体育祭の企画・運営を生徒会へ円滑に移行する体育祭や文化祭等の行事が実施できるよう感染対策を講じる</p> <p>(3) 感染予防策を講じながら、EXP02025 共創チャレンジなど地域団体等と連携した活動や部活動の出演をはじめとする地域イベントへの参加協力を行う</p>	<p>(1) 新入生対象の部活紹介・体験入部期間の設定などを実施 入部率70%以上 [69.6%]</p> <p>(2) 次年度から体育祭担当となる生徒会部の所属教員数を増員 [現在6名] 手指消毒、マスク着用、身体接触のある種目の削除、ソーシャルディスタンスの確保、必要に応じて無観客による実施などの感染対策を講じる</p> <p>(3) 地域協力5件以上</p>	<p>(1) 入部率69.8% (9月1日現在) ○ 69.8%と僅かに目標に達しなかったが、日々の部活動の状況を観察すると部活動活性の目標はほぼ達成したと考える</p> <p>(2) 生徒会部の教員数を2名増の8名とした ○ 体育祭は雨天により熱中症対策をしたうえで時間短縮し学期期末テスト後に実施。文化祭は新型コロナによる学校閉鎖の影響により中止 -</p> <p>(3) EXP02025 共創チャレンジへの参画「KIOUETAI」の活動に共生推進教室や生徒会・写真部とともに植栽に参加継 ・地元専門学校と地方創生SDGs「泉州美食」EXSPOに協定締結 ・企業と連携した使用済みコンタクト・ケースの回収運動 ・ダンス部・太鼓部が地元のイベントや保育所訪問等9件に参加 合計12件実施 ◎</p>
3 安全で安心な学校作り	<p>(1) 教育相談体制の充実</p> <p>(2) 人権意識、ノーマライゼーション、思いやりの気持ちの涵養</p> <p>(3) 交通事故の防止、SNSの適正利用、いじめ防止などについて継続的な指導を行い、規範意識を涵養</p>	<p>(1) 日々の登校指導での声掛けや見守り、部活指導などにより、相談しやすい生徒と教員の関係づくりをすすめる 教育相談委員会を機能させて職員間の情報共有を進め、生徒の見守りと支援を継続させる</p> <p>(2) 人権HRや日々の教育活動をとおして生徒の人権意識の涵養に努めるとともに、職員研修等により職員の人権意識および人権侵害事象への対応について見識を深める いじめ対策委員会を有効に機能させ、生徒や保護者からの訴えに迅速に対応する</p> <p>(3) 遅刻指導、制服・頭髪指導、交通安全講習会を行う 教科「情報」授業と人権委員会が連携し情報モラルやSNSの利用方法について学習を進める</p>	<p>(1) 学校教育自己診断「担任の先生以外にも気軽に相談できる先生がいる」65%以上 [66.9%]</p> <p>(2) 学校教育自己診断: 「先生は、いじめについて真剣に対応してくれる」への生徒の肯定的回答80%以上 [88.3%] 人権に関する職員研修を年1回以上実施する [2回]</p> <p>(3) 年間遅刻総数を2000件未満 [1722件] 学校教育自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会が多い」75%以上 [85.7%]</p>	<p>(1) 安全で安心な学校生活を過ごすためにアンケート(7月・12月実施) いじめアンケート(9月実施) 障がい理解共生推進教室についての職員研修(9月実施) 「担任の先生以外にも気軽に相談できる先生がいる」68.2% ○</p> <p>(2) 「先生は、いじめについて真剣に対応してくれる」への生徒の肯定的回答87.5% ◎ ・1年生対象「携帯・スマホの適切な使用」についてe-ネットキャラバンを利用してリモートで実施(5月) ○</p> <p>(3) 2358件 △ 個々の生徒の状況に応じ、寄り添った指導により削減に努めたい 「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会が多い」86.1% ◎</p>

府立久米田高等学校

4 個々の生徒が目的意識を明確に持った進路指導	<p>(1) 「自己管理」能力の育成や「キャリア教育」を推進する</p> <p>(2) 主体的に学習状況を把握し進路目標までのマイルストーンを描きながらアプローチできる進路指導</p> <p>(3) 共生教育を推進し、互いの人間性・社会性をさせる</p> <p>(4) 個々の生徒の状況やニーズを踏まえ、進路実現をサポートする</p>	<p>(1) 「夢設計手帳」を継続使用する 1年次に自分の将来を語る1分間スピーチ、プレゼン大会を実施する</p> <p>(2) 1年次より進路に向けた講演、情報を提供するとともに、学力生活実態調査や全国模試の結果を進路指導や家庭学習の指導に活用する</p> <p>(3) 共生推進教室の生徒と他の生徒と一緒に活動できる事業の創設を進める</p> <p>(4) 分野別進路指導を充実させる。土曜講習・長期休業中の進学講習を実施する。学力生活実態調査、全国模試で学力・学習実態把握、弱点克服を図る。</p>	<p>(1) 「夢設計手帳」にスケジュール管理とキャリアパスポートの機能を持たせる 1年の発表大会の継続実施</p> <p>(2) 学校教育自己診断「将来の進路や生き方について情報を得たり考えたりする機会がある」80%以上を維持する [85.6%]</p> <p>(3) 地域と連携するなど、新たな共同事業を立ち上げる（1件以上）</p> <p>(4) 中堅上位以上大学レベルの現浪合格数170以上を維持 [177] 中堅大学レベルの現浪合格数 240以上を維持 [205] 看護系 20人以上、公務員等 10人以上の合格 [看 41/公 15]</p>	<p>(1) 「スケジュール手帳」使用 1年生1分間スピーチ（9月）及びプレゼン大会（12月）実施 ○</p> <p>(2) NPO公開講座「先輩に聞く」公務員編（7月実施）を実施 「将来の進路や生き方について情報を得たり考えたりする機会がある」87.2% ◎</p> <p>(3) 「KIOUETAI」の植栽活動で共生推進教室や生徒会・写真部と共同で参加継続中 ○</p> <p>(4) 現浪合格数 中堅上位以上大学レベル 279 ◎ 中堅大学レベル 388 ◎ 看護系 44◎ 公務員等 8 △ 本年度は進学希望者が例年より多く、公務員受験者数が少なかったため</p>
5 広報活動の充実	<p>(1) 地元中学校との連携、学校説明会のより一層の充実</p> <p>(2) インターネットを活用した教育活動の積極的な情報発信</p>	<p>(1) 中学校から依頼された部活動公演や、中学校部活動との合同練習会を積極的に実施する。中学校から依頼された講演会に教員を派遣する 学校案内の刷新、感染対策を講じた学校説明会を実施する</p> <p>(2) 学校ホームページの更新、校長ブログ、及び久米田メールを活用し、生徒・保護者に必要な情報をタイムリーに発信する</p>	<p>(1) 中学3年生対象第10月進路希望調査において希望倍率2.1以上 [2.46]</p> <p>(2) 学校教育自己診断：「学校は、ホームページの更新やメーリングリスト等で、学校の情報を伝えている」保護者85%以上 [88.8%]</p>	<p>(1) 中学3年生対象10月進路希望調査における希望倍率は2.34倍 ◎</p> <p>(2) 「学校は、ホームページの更新やメーリングリスト等で、学校の情報を伝えている」87.7% ○</p>
6 職員の時間外勤務の縮減	<p>(1) 「部活動の方針」を遵守するとともに、最終退庁時刻の励行を進める</p> <p>(2) 業務分担の推進</p>	<p>(1) 月間部活動計画の校内公開、校内放送や顧問への啓発による部活終了時刻の徹底を図る</p> <p>(2) 限られたマンパワーで効率的かつ効果的に校務を遂行できるよう偏りのないマンパワーの振り分けを行う</p>	<p>(1) (2) 職員の月平均時間外勤務時間数を年間30h未満 [28h18m]</p> <p>(2) 校務分掌定員見直しの実施</p>	<p>(1) 完全下校時間及び職員の最終退勤時間を徹底させている。 4～2月平均時間外勤務時間 26.12h ○</p> <p>(2) 各分掌の業務内容・業務量・繁忙期などを考慮し、次年度に向け定数配分を変更 ○</p>